

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年12月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4071602348
法人名	医療法人 三井会
事業所名	グループホーム くましろ式番館
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市北野町石崎 162-1 (電話) 0942-41-3398

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成20年12月15日

【情報提供票より】(20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	14 人	常勤	14 人	非常勤	人	常勤換算	14人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	(新築) 改築
建物構造	軽量鉄骨 造り	2階建ての 2階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100円	

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	8 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神代病院、訪問看護ステーション 野いちご、黒岩歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体の病院は、昔からこの地域で医療に携わってきているという経過もあり、地域住民からの信頼も厚く、くましろ式番館も開設当初から、地域にすんなりと溶け込むことが出来た。先に出来たくましろ式番館は、病院に併設しているが、式番館は、より地域性が豊かな場所に建てられており、近隣の方々が気軽に立ち寄りたり遊びに来れる環境が出来上がっている。また、近くに農園も持っており、利用者をはじめ、近隣の方々も一緒に手伝ってくれたりしながら、無農薬の野菜の収穫を楽しむこともある。収穫した野菜は食卓に並ぶ機会も多く、利用者の栄養管理にも一役買っている。利用者は、自分のペースで、それぞれ自由に過ごしており、普通の暮らしを当たり前に」と理念にあるが、本当に自然に、そのことを実践できていることを感じることが出来るホームであった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、職員を育てる取り組みの項目において、年間の研修計画が作成されていなかったため、要改善であったが、今回は研修計画を作成した上で、勉強会を開催し、質の向上に取り組むように改善されていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	まず職員がそれぞれ自己評価票に記入したものを集めて、それらの内容をまとめて管理者が作成し、そのまとめたものを再度職員にフィードバックして、評価の意義について共有を図った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	区長や民生委員、市の職員、地域包括支援センターの職員、利用者家族の代表等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらったり、双方の情報交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)
	利用者の日々の様子がわかるものとして、行事等の写真を使って「横丁だより」を作成し、家族に配布している。またホームの行事等に合わせ、それぞれが気軽に意見を出せる場として、家族会を開催するようにしている。また、直接言いにくい方のために、ホームの入り口に意見箱も設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、地域で行われている行事や清掃活動等積極的に参加しながら、地域の人たちとの交流を図っている。また、ホームで開催する夏祭りやもちつきには、地域の方々の多数の参加がある。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	ホーム開設時に、職員で話し合って「普通の暮らしを当たり前に過ごし、みなさんとの絆を深めていきたい」という理念を作り上げた。地域の人気が気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを心がけている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、時々唱和を行ったり折に触れ話しをするようにしている。管理者および職員は常日頃より理念を頭におき日々の入居者の支援にあたっている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域で行われている行事や清掃活動等、積極的に参加しながら、地域の人たちとの交流を図っている。また、ホームで開催する夏祭りやもちつきには、地域の方々の多数の参加もある。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず職員がそれぞれ自己評価票に記入したものを集めて、それらの内容をまとめて管理者が作成し、そのまとめたものを、再度職員にフィードバックして、評価の意義について共有を図った。また、昨年の外部評価における改善点についても、改善に向けて取り組みを行った。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長や民生委員、市の職員、地域包括支援センターの職員、利用者家族の代表等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらったり、双方の情報交換の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内のグループホーム協議会の勉強会開催時には、市の担当者も参加しており、双方においてサービスの質の向上に取り組んでいる。市の窓口にも、パンフレットを持参する等、出向いていく機会も多い。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内に制度に詳しい職員がいるので、その職員達に講師になってもらって、年に1回、勉強会を行っている。制度に関するパンフレットも準備しており、必要時に活用できるようにしている。		パンフレットの準備はなされているが、今のところ、全ての職員がパンフレットの置き場所を把握していない状況のようである。誰が聞かれても、すぐに対応できるような体制にしておくことが望まれる。
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の様子がわかるものとして、行事等の写真を使って、年に4回「横丁だより」を作成しており、家族へ報告している。また何かあれば、その都度電話や面会時に話をするようにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの行事の時に合わせて、それぞれが気軽に意見を出せる場として家族会を開催している。また直接言いにくい方のために、ホームの入り口に意見箱も設置している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力異動は行わないようにはしているが、状況をみて異動を行う場合もある。職員が入れ替わる時には、必ず2週間程度引継ぎの期間を設けて、利用者のダメージを最小限に留めることができるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人本人の資質やグループホームに向いているかどうかというところを重視しており、年齢や性別、資格等で採用から排除することはない。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>年に3回、外部講師を呼んで、法人全体において研修を行っている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事前に年間計画を立てた上で、ホーム内で月1回勉強会を行ったり、母体の病院と合同で勉強会を行ったりしている。また、外部研修にも積極的に参加を促している。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内で立ち上げている、事業所協議会のグループホーム部会に参加しており、定期的開催されている勉強会等にも積極的に参加している。また、管理者は他のホームとの関係づくりにも力を入れており、相互で見学しあったりする機会も多く、それぞれ、質向上に取り組んでいる。</p>	○	<p>管理者や以前から勤務している職員は、他のホームを見学する機会も多かったが、最近就職した職員については、まだ見学等を行ったことがないという人もいるようだ。全職員に対して、交流の場を与えていく状況にしていくことが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>待機中にも電話をかけて、様子を伺うようしている。また、他のホームも見た上で入居を決めてもらうようこと助言している。いざ入居が決まったら、事前に面会に行き、家の状況等も把握するようしておりなるべく利用者の自宅の状況に合わせた環境づくりを行うようしている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>それぞれに役割を持ってもらうように働きかけをおこなっている。職員と一緒に何かすることもあるが、何にでも手を出すのではなく、出来ることは行ってもらったり逆に教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>出来る限り希望や意向を聞いて、出来る範囲でそれを叶えることができるように努めている。意向の把握が困難な利用者もいるが、その人の表情から判断したり家族から話を聞いたりしながら、本人の思いや意向の把握に努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者が作成したケアプランを見ながら、職員で話し合い、意見を出し合ったものを最終的なケアプランとしてまとめている。家族の意見についても面会時に聞いて、それらを反映させたケアプランを作成しており出来たものを提示し、同意をもらっている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、モニタリングを行った上で見直しを行い、新たな計画を作成している。状態に変化が見られた場合には、その都度見直しを行うようしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人にとって、現状、どのようなことが必要なのかを考えながら、馴染みの関係が壊れないようにする等、状況に合わせて柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの馴染みの関係が崩れないように、元々のかかりつけ医への受診を支援している。また状況によっては往診をしてもらうことも可能である。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りについての指針を作成しており、事前に説明を行い、同意の記名・捺印ももらっている。実際にその状態になられた場合、かかりつけ医をはじめ、家族とも話し合いながら対応するようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。また部屋の前の名札も、地域の人出入りが多いため、掲げないようにしていたり、記録類についても事務所内の鍵がかかる棚で管理する等、個人情報の取扱いにも注意を払っている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて、決して無理強いはいはしないように対応している。起床時間や就寝時間、食事の時間等もなるべくそれぞれのペースに合わせて対応するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれが出来る範囲で関わりを持ってもらうようにしている。利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を摂りながら、ゆったりとした食事の時間を楽しんでいた。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決めてはならず、利用者の希望に合わせて援助を行っている。入浴を拒否する利用者については、無理強いしないで、原因を探りつつ、職員やタイミングを変えたりして、アプローチしていくように心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が出来ることが、いつの間にかそれぞれの役割となっており、洗濯物干しやたたみ、生け花等、職員が誘導しなくても、それぞれが自然と行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望を聞きながら、近所まで散歩に行ったり、買物等に出掛けている。また時にはドライブにも出掛けることもあり、積極的に戸外にでる機会を持っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は一切鍵をかけないようにしており、職員による見守りにて対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っている。その際、夜間を想定した訓練も行い、いざという時に備えている。また地域の方々の協力も得られるように、運営推進会議等で日頃よりお願いをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時々、母体病院の管理栄養士に献立をチェックしてもらいながら、栄養のバランスが取れた食事を提供している。また、食事や水分の摂取量も必要に応じてチェック表に記載するようにしており、それぞれの状態に応じて支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング等、あちこちに利用者が活けた季節の花が飾られていたり、ソファやテーブル、装飾品も一般の家庭にあるようなもので揃えられており、心地よく過ごせる空間作りがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具が持ち込まれており、居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		